医療学部

# 言語聴覚学科

Department of Speech and Hearing Sciences

【取得可能な資格】
言語聴覚士国家試験受験資格

定員 40名

## 言語聴覚学科が養成する人材

言語聴覚士は、人間にとって重要な「話す」「聞く」「読む」「書く」「食べる」機能に障害を持つ人への評価や訓練、指導などを行う医療専門職です。対象は、乳児から高齢者まで幅広く、障害の種類や程度もさまざまです。そのため、たくさんの知識や技術のほか、コミュニケーション能力が必要になりますが、1年次の関連施設における言語療法場面の見学、2年次の保育園や高齢者施設でのコミュニケーション体験、3·4年次の病院や施設でのコミュニケーション体験、3·4年次の病院や施設での臨地実習を通してこれらを修得していきます。
数人の学生グループに専任教員を配置したアドバイザー制で、きめ細かな指導を行うフォロー体制も整備しています。

### Admission Policy アドミッション·ポリシー

①言語聴覚療法の分野で活躍したいという目的意識が明確であり、何事にも自主的に取り組むことができる者
②基本的倫理観を持つ者
③各専門知識を学び応用するために必要な基礎学力を有している者
④海外の保健·医療·福祉、特に言語聴覚療法に興味を持つ者

福岡県で唯一となる4年制大学の言語聴覚学科です。

### Message

言語聴覚士は「話す」「聞く」「読む」「書く」「食べる」といった、コミュニケーション機能や飲み込みに問題がある方をサポートする医療専門職（国家資格）です。すでに国家試験は25回実施されており、全国に4万人近くの有資格者がいます。主な活躍の場は病院のリハビリテーション科で、理学療法士や作業療法士と共に、脳卒中やパーキンソン病など言語障害や飲み込みの障害を発症した患者さんに対して、評価·訓練·指導を行います。他にも、難聴、吃音、発達障害を抱える患者さんのサポートを行うこともあるため、福祉や教育の場でも言語聴覚士の必要性が高まっています。対象とする障害によっては他の身体障害の患者さんと比べて回復が長期にわたることが多いため、現在、より多くの言語聴覚士が必要とされています。
本学の姉妹校である国際医療福祉大学大川キャンパスは、1期生より常に就職率が100%を達成、国家試験も過去に何度も100%を達成しています。その大川キャンパスの業績と教育経験を継承し、2023年4月、福岡国際医療福祉大学に言語聴覚学科が誕生しました。この百道の地で、言語聴覚士の夢を叶えましょう。

言語聴覚学科長
**爲数 哲司 教授**

西南学院大学、国立身体障害者リハビリテーションセンター学院卒業、長崎大学大学院修了、西南学院大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了、博士（人間科学）、長崎リハビリテーション学院言語療法学科学科長、国際医療福祉大学福岡保健医療学部言語聴覚学科学科長を経て現職。日本音声言語医学会評議員、日本高次脳機能障害学会代議員、リハビリテーション教育評価機構評価員。



## 言語聴覚学科の特色

専門性、総合性、柔軟性、社会性、国際性を備え、対象者に寄り添う心を持ち、
対象者および関連職種と十分なコミュニケーションがとれる言語聴覚士を養成します。

### POINT.01
段階的な言語療法知識の修得

言語聴覚学科では、1年次より段階的に豊かなコミュニケーションが実践できる能力の修得をめざしています。「リハビリテーション概論」や「コミュニケーション障害演習」などの科目を通して言語聴覚療法に携わる者としての心構えを養います。

### POINT.02
系統的な講義と
実践による知識と技術の獲得

進歩し続ける言語聴覚障害分野及び近接分野の高度な知識·技術を身につけるため、最善の言語聴覚療法を提供できるような系統的な講義、演習、臨床実習を展開します。また、「コミュニケーション技能演習」「言語聴覚障害基礎演習」などの科目では、ICTの活用や図書館の有効利用の推進、問題解決能力を育てるためのアクティブラーニングの実践により、医療現場に必要な問題解決能力や社会的能力を育てます。

### POINT.03
きめ細やかな指導の徹底

きめ細やかな指導の徹底するために、担任制、アドバイザー制や少人数での学内実習の実践といった学修環境を整備し、国家試験対策に取り組みます。

## [ 言語聴覚療法の対象となる主な疾患·障害 ]

| | |
|---|---|
| 神経系疾患 | 脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷 |
| 変性疾患 | パーキンソン病、筋ジストロフィー病、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症 |
| 悪性腫瘍 | 舌がん、喉頭がん |
| 耳鼻科疾患 | 先天性難聴、中途失聴、加齢性難聴 |
| 小児関係の疾患 | 知的障害、脳性まひ、ダウン症、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習障害、口唇口蓋裂 |

## [ 活躍のフィールド ]

### 医療機関
●病院、診療所
（リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、小児科、形成外科、口腔外科） ほか

### 教育機関
●大学 ●専門学校
●特別支援学校
（聴覚障害·知的障害·肢体不自由） ほか

### 福祉施設
●障害福祉センター ●小児療育センター
●通園施設 ●放課後デイサービス ほか

### 医療福祉関連企業
●補聴器関連会社 ●人工内耳関連会社 ほか

### 介護施設
●養護老人ホーム ●介護老人保健施設
●ケアハウス ●グループホーム ほか

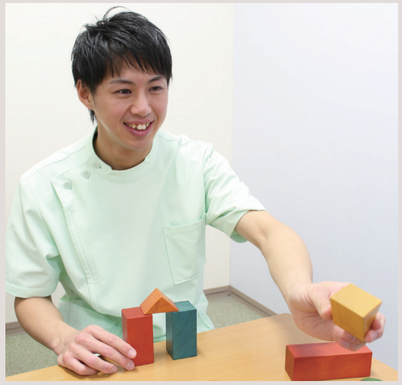
### その他
●行政機関 ●研究機関 ほか

## 言語聴覚士として活躍中！

### 発達障害の子どもたちのお兄さんのような存在をめざして認定資格取得に挑戦中

私は姉妹校の国際医療福祉大学で言語聴覚を学び、現在、福岡山王病院で勤務しています。就職してからずっと子どもを対象とすることが多かったこともあり、主に発達障害を持った子どもの言語訓練を任されています。子どもはことばが増えたり、コミュニケーションが伝わるようになったりと日々成長を感じる瞬間が多いため、やりがいもひとしおです。8年間働いてきましたが子どもやご家族から感謝されると、やはり今でも喜びを感じます。
一般的に子どもを専門とする言語聴覚士の多くは女性です。しかし、男性の言語聴覚士だからこそ、子どもたちのお兄さん的存在として寄り添うことができるのではないかと私は考えています。
発達障害に関する知見を深めるため、仕事の傍ら、国際医療福祉大学の大学院に通い、無事に卒業することができました。ゆくゆくは発達障害領域での認定資格も取得したいと考えています。

PROFILE
2015年国際医療福祉大学を卒業し、柳川療育センターに入職。発達外来や入所者の言語聴覚療法を担当。2020年に福岡山王病院へ異動。同時期より国際医療福祉大学大学院言語聴覚分野に進学する。現在は、小児のみならず成人領域の言語聴覚療法のスキルアップにも励み、認定言語聴覚士の資格取得をめざしている。



坂本 一馬さん
福岡山王病院 言語聴覚士

# 専門性の高い支援ができる言語聴覚士の養成

言語聴覚学科では、高い倫理観と豊かな教養を持ち、コミュニケーションや食事など日常生活に困難を示す方に専門性の高い支援ができる言語聴覚士の養成を目標とします。そのため、言語聴覚障害学や言語聴覚療法の理論の理解や言語聴覚療法の実践技術の修得にとどまらず、対象者を思いやる心の育成、対象者、関連職種とのコミュニケーション能力の育成をめざします。

## 特色ある授業（演習・実習）

### 言語聴覚障害学概論

リハビリテーション専門職である言語聴覚士の輪郭を理解し、言語聴覚士としての基本的臨床態度を修得します。また、言語聴覚療法の概要・業務内容・対象・治療法・研究領域について理解します。

### コミュニケーション障害演習

言語聴覚療法を実施している病院、リハビリテーションセンター、介護福祉施設などの施設において、言語聴覚療法業務を見学し、施設の役割や各施設における言語聴覚士の役割について理解します。

### 関連職種連携ワーク

関連職種連携ワークは、演習形式によるIPE教育（関連職種連携教育）の実践カリキュラムです。学生同士がグループに分かれて学修を展開しながら、ひとつの症例と向かい合い、医療福祉連携、チーム医療・チームケアについての理解を深めます。また、保健、医療、福祉に携わる職種の専門性と関連性、チーム医療・チームケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得します。

VOICE

## 些細な質問にも真剣に向き合ってくれる先生との距離の近さが魅力です

姉妹校・国際医療福祉大学（大川キャンパス）
福岡保健医療学部 言語聴覚学科 3年
吉田 柊偉 さん
（福岡県立中間高等学校出身）

私は幼い頃から吃音を持っており、高校生の時に同じ悩みを抱えている人がたくさんいることを知り、言語聴覚士をめざそうと思いました。
いま私が力を入れて取り組んでいることは授業の復習です。毎日少しでもいいので復習しておくと、わからないところが見つかり、次の授業時に質問ができます。先生方は学生の些細な質問に対しても真剣に答えてくださいます。授業で習った検査方法などを実際に自分たちで機械を使いながら実践できることも言語聴覚学科の魅力の一つです。
実技の授業では先生が患者さん役となり、一対一で話をしながらどのような障害があるかを考える授業があります。準備万端のつもりで臨みましたが、実際に実技を受けてみると、思い通りにはいきませんでした。患者さんとコミュニケーションを取る際は、持っている知識を伝えるだけでは通用しません。さまざまな知識を組み合わせながらコミュニケーションを取ることの大切さをこの授業で学ぶことができました。
このように、障害で苦しんでいる人を訓練やリハビリで治療することはもちろん、「この人に出会えてよかった」と患者さんに安心してもらえるような言語聴覚士になりたいです。

※言語聴覚学科は本年度開設のため、姉妹校・国際医療福祉大学の在学生インタビューを掲載しています。





## 4年間の学修の流れ

### 1年次

言語覚障害学全体のアウトラインをつかむ。

#### 専門基礎科目

【必修】
●保健医療福祉制度論 ●リハビリテーション概論 ●解剖学 ●生理学 ●病理学 ●臨床医学概論 ●リハビリテーション医学
●生涯発達心理学 ●認知心理学 ●言語学Ⅰ（基礎） ●言語発達学 ●基礎音声学 ●コミュニケーション障害演習
【選択】
□公衆衛生学 □ケアマネジメント論 □基礎薬理学 □栄養学 □カウンセリング論

#### 専門科目

【必修】
●言語聴覚障害学概論 ●コミュニケーション障害演習

#### 総合教育科目

【必修】
●データサイエンス ●医療とICT ●生命倫理 ●大学入門講座 ●医学英語Ⅰ ●医学英語Ⅱ
【選択】
□生化学 □韓国語 □中国語

### 2年次

言語聴覚障害学の主な4分野（成人言語障害学、言語発達障害学、聴覚障害学、発声発語障害学）の基礎的な事項を学ぶ。

#### 専門基礎科目

【必修】
●関連職種連携論 ●内科学Ⅰ（基礎） ●中枢神経機能学 ●臨床神経学 ●精神医学 ●小児科学 ●耳鼻咽喉科学 ●臨床歯科医学
●音声言語医学 ●聴覚医学 ●臨床心理学 ●学習心理学 ●神経心理学 ●心理測定法 ●心理測定法演習 ●言語学Ⅱ（発展）
●音声学 ●音声音響学
【選択】
□救急医学 □内科学Ⅱ（臨床） □老年学 □児童精神医学

#### 専門科目

【必修】
●失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎） ●失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ（展開） ●言語発達障害学総論 ●言語発達障害学各論
●聴覚障害学総論 ●聴覚機能評価学 ●発声発語障害学総論 ●流暢性障害学 ●機能性構音障害学 ●コミュニケーション技能演習

#### 総合教育科目

【必修】
●海外保健福祉事情Ⅰ（講義） ●海外保健福祉事情Ⅱ（実習）

### 3年次

「言語聴覚障害診断学」で、言語病理学的な観点から評価・診断するために必要な情報収集、検査、情報の整理などについて学ぶ。また、各分野の専門的な事項を学修する。

#### 専門基礎科目

【必修】
●関連職種連携ワーク ●形成外科学 ●口腔外科学 ●聴覚心理学
【選択】
□リスクマネジメント論

#### 専門科目

【必修】
●言語聴覚障害診断学 ●失語症学Ⅰ（評価・診断） ●失語症学Ⅱ（治療） ●失語症・高次脳機能障害学演習 ●高次脳機能障害学
●言語発達障害学Ⅰ（評価・診断） ●言語発達障害学Ⅰ演習（評価・診断） ●言語発達障害学Ⅱ（指導） ●言語発達障害学Ⅱ演習（指導）
●聴覚補償論（補聴器・人工内耳など） ●小児聴覚障害学Ⅰ（評価・診断） ●小児聴覚障害学Ⅱ（指導） ●成人聴覚障害学（二重障害を含む）
●器質性構音障害学 ●運動障害性構音障害学Ⅰ（理論） ●運動障害性構音障害学Ⅱ（評価診断・治療） ●音声障害学
●摂食・嚥下障害学Ⅰ（理論・評価診断） ●摂食・嚥下障害学Ⅱ（治療） ●言語聴覚障害基礎演習 ●臨床実習Ⅰ（基礎）
【選択】
□言語聴覚障害学研究法

#### 総合教育科目

1～4年次【必修】
●健康科学理論 ●健康スポーツ実践
1～4年次【選択】
□心理学 □哲学 □倫理学 □文学 □教育学 □教育方法論 □コミュニケーション概論 □雑談と傾聴ー話す力と訊く力ー
□日本近現代史 □宗教学 □アジア比較文化論 □法学 □経済学 □社会学 □国際医療福祉論 □社会保障制度論 □ボランティア論
□ボランティア実践 □生物学 □物理学 □人間工学 □医学・医療史 □メディカルマナー入門 □医療福祉教養講義 □英会話

### 4年次

これまでに学んだ言語聴覚障害の知識・技術を整理・統合し、臨床実践に向けての準備を行う。

#### 専門科目

【必修】
●言語聴覚療法特論 ●臨床実習Ⅱ（総合）
【選択】
□卒業研究

#### 総合教育科目

【選択】
□死生学ー死を通して生を考えるー

●＝必修科目 □＝選択科目